



『文学碑』をたずねて その1

文化財といえば、つい、建造物・美術工芸品・史跡・名勝などを思い出しがちであるが、文学碑も立派な文化財の一つである。今ここに姫路市内に存在する文学碑をたずね、その内のいくつかを簡潔ながら地域別に紹介し、作者の業績を讃えたいと思う。

1 林田地域

松尾芭蕉句碑（姫路市林田町林谷 薬師寺境内）

伊賀国（現三重県）出身で「奥の細道」「笈の小文」「野ざらし紀行」などの作品を残した江戸時代の俳人松尾芭蕉句碑。

『降らずとも 竹うゆる日は 叢と笠 はせを』

当寺には他に二基の句碑も見られる。



松尾芭蕉句碑

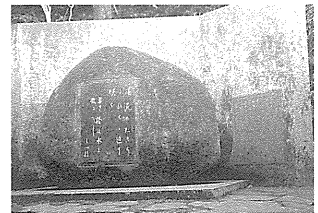
2 太市・飾西・曾左地域

初井しづ枝歌碑（姫路市書写 書写山円教寺境内）

短歌会「コスモス短歌会」を主宰し「花麒麟」「藍の紋」「白露蟲」「冬至梅」「夏木立」などの歌集を発刊した初井しづ枝の歌碑。碑は昭和55年3月にコスモス短歌会姫路支部が建立した。

『溪流の たぎちにひくく

迫り咲く 赤き椿は 水に散るべし しづ枝』



初井しづ枝歌碑

椎名麟三文学碑（姫路市書写 書写ロープウェー山頂駅）

現姫路市書写東坂出身で小説「深夜の酒宴」「美しい女」「自由の彼方で」、ミュージカル「姫山物語」などの作者椎名麟三の文学碑。昭和38年執筆の「姫山物語」は同年11月手柄山厚生会館で上演された。

文学碑

表『言葉のいのちは愛である TARO』

裏『1911年母の里書写に生れ、名作深夜の酒宴により戦後文学の代表者となる。のちキリスト教に入信し、自由の彼方で、美しい女をはじめ多くの秀作を世に問うた。姫山物語上演にかたむけた郷土愛はいまも姫路市民の感動を呼ぶ。1973年没。碑面の書は親交のあった岡本太郎氏による

造形小野田實 1980年5月椎名麟三文学碑建設委員会』



椎名麟三文学碑

高浜年尾句碑（姫路市書写 書写山円教寺境内）

俳人高浜虚子の子息で父の遺志を継ぎ、句誌「ホトトギス」を主宰。「年尾句集」「父虚子とともに」などを執筆した高浜年尾の句碑。

表『歌塚の 四季を訪はんと 思ふ秋 年尾』

裏『句碑縁起 年尾先生御発願に依る西国観音札所探勝吟行（昭和44年9月15日）の折の御作。奥の院の山内にある和泉式部の歌塚を詠まれたもの。歌塚の四季を訪はんと 思ふ秋 ホトトギス主宰 高浜年尾 昭和57年7月11日之建 播磨ホトトギス会田鶴発行所』



高浜年尾句碑

桑田青虎句碑（姫路市書写 書写山円教寺境内）

ホトトギス派の俳人で句会「田鶴」の主宰である桑田青虎の句碑。碑の句は「桑田青虎句集」の中の句。平成2年9月田鶴有志一同が發起人となり建立した。

『忌を修し 書写に泊つるも 十三夜 青虎』



桑田青虎句碑

五十嵐播水句碑（姫路市書写 書写山ロープウェー山頂駅）

ホトトギス派の俳人で句誌「九年母」を創刊・主宰した故五十嵐播水の句碑。句集「播水句集」「埤頭」「石路の花」俳論「句作春秋」など多くの作品を残している。碑は播水百歳を記念して平成10年4月に九年母会・九年母同人会が建立した。

『曼珠沙華 幼き記憶 みな持てり 百寿翁播水』



五十嵐播水句碑

森澄雄句碑（姫路市書写 書写山ロープウェーのりば公園内）

「雪襟」「花眼」「鯉素」などの句集、「森澄雄俳話百題上・下」「名句鑑賞事典」などの著者で句会「杉」の主宰者森澄雄の句碑。平成15年に姫路文学館で「森澄雄の世界」の題で展覧会が開かれた。この碑は「杉」創刊30周年を期して「杉」俳句会が建立した。平成12年9月建立。

『西国の 畦曼珠沙華 曼珠沙華 澄雄』



森澄雄句碑

空地ちづ子歌碑（姫路市書写 阿弥陀寺墓地内）

初井しづ枝主宰「コスモス短歌会」の門人として活躍し歌集「白き花冠」「青紫蘇句ふ」を出版した故空地ちづ子の歌碑。平成7年8月親族が7回忌供養として建立した。

『軽やかに 風にし散らふ 花びらや
千萬乃行方 光のごとし ちづ子』



空地ちづ子歌碑

3 勝原・網干・余部地域

河野鉄兜詩碑（姫路市網干区余子浜字垣内）

文政8年（1825）垣内に生れ、のち林田藩藩校「敬業館」の教授となった河野鉄兜の漢詩碑。生家に「網干」の題で詠んだ七言絶句の漢詩碑が昭和15年に建立された。

『吾郷山水本超凡 淡蕩煙波開鏡函
十里垂楊風不斷 家家門外有春颿 秀野人書』

河野鉄兜詩碑



池田龍眠句碑（姫路市網干区浜田 龍門寺境内）

網干区余子浜出身で萩原井泉水主宰「層雲」の門人であった俳人故池田龍眠の句碑。句集「日を浴びて」を發刊。同世代の俳人に種田山頭火がいた。昭和9年11月層雲播磨支部がこの碑を建立した。

『木の葉ふる 堂の扉を 鎖しみる 龍眠』



池田龍眠句碑

池田昌夫詩碑（姫路市網干区宮内 魚吹八幡神社境内）

池田龍眠の弟で詩集「祭りの夜」「網干西小学校校歌」「網干高等学校校歌」などの作者であり、また教育者でもあった池田昌夫の詩碑。昭和61年10月池田昌夫詩碑建設の会協賛者の手によって建立された。

祭りの夜 池田昌夫

無数の提灯が	笙のひびきの中に供えられ
実った稲田に反映し	神官の祝詞が深夜の静寂に
果しない星空に	おごそかにひびきわたる
金色の神輿の瑤珞は	氏子の幸と実りの秋を祈りつつ
揺られ揺られて	私たちはそろって拍手を打つ
神がみの歓喜の響きを立てる	むしろにひれ伏す私たちの魂に
御旅所に着いた神輿に	悠久の歴史がよみがえる
山の幸 海の幸が	



池田昌夫詩碑

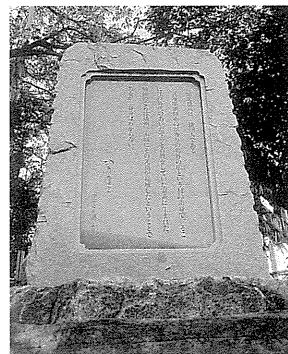
4 広畑・大津地域

司馬遼太郎文学碑（姫路市広畑区北野町 広畑天満宮境内）

祖父が飾磨郡広村（現姫路市広畑区）出身で「国盗り物語」「竜馬がゆく」「播磨灘物語」などの作品を残した司馬遼太郎の文学碑。

『祖父惣八は播州人である。兵庫県姫路市の浜寄りの郊外の広という村の出身でそこに江戸時代のあいだずっと百姓をしていた家系に生れた。戦国のころは播州三木城にその先祖が籠城したということであるが身分はわからない。 司馬遼太郎「歴史と小説」より』

この碑は平成15年12月に建立された。



司馬遼太郎文学碑

5 砥堀・水上・城北地域

酒井忠恭句碑（姫路市白国3丁目 念仏堂境内）

寛延2年（1749）姫路城城主となった酒井忠恭が増位山の風羅堂を訪れた時に詠んだ句碑。

『はせを葉や 風にやれても 名は幾世
寛延己巳 前田武備謹記』

井上千明句碑（姫路市白国3丁目）

京都出身で寛政11年（1799）に来姫した井上千明の句碑。芭蕉塚碑の側に建てられている。

『千明 さくらほど 散るもの裳なき 夕かな』

この碑の横には桜井栗堂の句碑『白露の天涯もなし○○○○○』があるが完読は不可能である。

梶子節句碑（姫路市白国3丁目 念仏堂境内）

句会「白鷺会」を主宰し句集「鷺の脚」を出版した故梶子節の句碑。

『なき名聞く 悲しき春や 呼子鳥 子節』

この碑は白鷺会の逸夢・杜若・山王子・花裳四子を追憶して明治45年に白鷺会が建立した。



酒井忠恭句碑



井上千明句碑



梶子節句碑

山口誓子句碑（姫路市広嶺山 広峯神社境内）

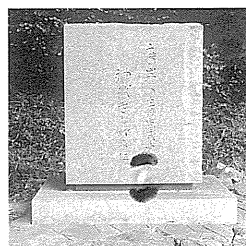
句会「天狼」を主宰し句集「凍港」「炎昼」俳論「子規諸文」などを著わした山口誓子の碑。

『廣峯の 青齒朶神代 さながらに 誓子』

山口誓子詞書碑

句碑の側に建てられている。昭和56年建立。

『青齒朶は古代から日本の山野に自生してゐた。その葉が新年の飾りとして神と結びつた。青齒朶を見れば神代を想ふ。 山口誓子』



山口誓子句碑

山口誓子詞書碑

五十嵐播水句碑（姫路市坊主町 野里小学校校庭内）

播水の出身校野里小学校校庭内に野里小学校昭和56年卒業生一同が建立した。

『貫きし 一すぢの道 若葉萌ゆ 播水』



五十嵐播水句碑

松岡秀峰句碑（姫路市八代本町1丁目 松岡宅）

五十嵐播水主宰「九年母」の門人で句集「発掘日記」を著わした松岡秀峰の碑。昭和61年姫路九年母会が建立した。

『餅の手に 沁みる石膏 土器を接ぐ 秀峰』

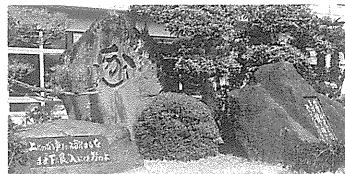


松岡秀峰句碑

和辻哲郎詞書碑（姫路市砥堀小学校校庭）

仁豊野出身で「古寺巡礼」「鎖国」「埋もれた日本」「日本精神史研究」などを著わした和辻哲郎の『ちから』の碑。

『ちから 成長を欲するものはまず根を確かにおろさなくてはならぬ。上にのびる事をのみ欲するな。まず下に食い入ることを努めよ。』



和辻哲郎詞書碑

和辻哲郎生家の碑（姫路市仁豊野）

和辻哲郎の生誕地に建てられている碑。

表『春の来た日に和辻哲郎ここに生まれる』

裏『平成4年春建立。仁豊野自治会 姫路市文化振興財団

明治22年3月1日に仁豊野309番地に和辻瑞太郎・まさの次男として生まれる。昭和30年文化勲章受賞。

昭和35年12月26日逝去』



和辻哲郎
生家の碑

旧制姫路高等学校寮歌碑（姫路市新在家本町 兵庫県立大学内）

大正13年に創立され、学制の改革によって昭和25年3月に廃止された旧制姫路高等学校の白陵寮寮歌「ああ白陵の」碑。昭和39年創立40周年を記念して同窓会の手によって建立された。

表『ああ白陵の碑 木村善太郎書』

裏『白陵歌 ああ白陵の春の宵
惜春の譜の流れ来て
寮の灯おののけば
さびれを慕ふ男の子らが
若き血潮のおどるかな』



旧制姫路高等学校寮歌碑

(次回につづく)

編集 松岡秀樹（姫路市文化財嘱託調査員）